果樹情報　第１１号　（R7.9.10～R7.9.23）

県中農林事務所須賀川農業普及所・JA 夢みなみ（すかがわ岩瀬地区、あぶくま石川地区）

1　果樹の生育状況（令和7年9月1日時点）

（1）須賀川農業普及所管内の果実肥大状況

なしの果実肥大は、「豊水」では暦日対比、満開後日数比較ともに平年並の状況です。また、りんごの果実肥大について、「ふじ」は暦日対比及び満開後日数比較で、須賀川では平年よりやや大きく、鏡石では平年より小さく、石川では平年並の状況です。

表1　管内の各樹種における果実肥大状況　（令和7年9月1日現在）

樹種	品種（調査地点）	本年		平年		平年比	
		縦径 mm	横径 mm	縦径 mm	横径 mm	縦径	横径
りんご	ふじ（須賀川市浜尾）	75.5	85.9	72.0	80.9	105%	106%
	ふじ（鏡石町高久田）	70.6	74.7	71.3	78.9	99%	95%
	ふじ（石川町沢井）	73.2	81.3	70.6	78.0	104%	104%
	ジョナゴールド（石川町沢井）	71.2	83.6	73.0	83.3	98%	100%
	シナノスイート（石川町沢井）	73.0	81.4	70.1	79.4	104%	103%
なし	豊水（須賀川市越久）	75.5	87.1	75.0	87.2	101%	100%

（2）果実の成熟状況（農業総合センター果樹研究所）

ア　なし「豊水」の成熟状況

満開後130日における果実品質は、硬度が7.6ポンドで平年より高く、糖度が12.4° Brix で平年並、果皮中クロロフィル含量に対する果実硬度は平年より高くなりました。

表2 「豊水」の成熟経過

生育日数	硬度（lbs.）			地色			糖度（° Brix）		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
130日	7.2	6.1	6.0	2.0	2.4	1.9	12.4	11.8	11.9

生育日数	果皮中クロロフィル含量（$\mu g/cm^2$）			リンゴ酸含量（mg/100ml）			みつ入り		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
130日	6.2	7.0	7.3	0.12	0.15	0.12	1.6	1.6	1.5

※1：平年値は、1991～2020 年の平均値。本年は満開後 131 日に調査。

※2：みつ入り指数　1：果実の切断面全体が白っぽく水浸状がほとんど気にならないもの。

2：果皮直下の部分がわずかに水浸状を示しているように見えるもの。

3：水浸状を示している部分が広く、果皮直下では水浸状部の境界が比較的はっきりしているもの。

4：果実切断面の大部分が比較的はっきりした水浸状を示しているもの。

2　栽培上の留意点

（1）共通

ア　かん水

高温・乾燥状態が続く場合には、速やかにかん水を実施しましょう。

5月から夏季にかけて果樹園からの1日当たりの蒸発散量は、晴天日で6～7mm、曇天日で2～3mm、平均で4mm 程度のため、1回のかん水は 25～30mm 程度（10a当たり 25～30t）を目安とし、5～7日間隔で実施しましょう。保水性が劣る砂質土壌などでは、1回のかん水量は少なくして、かん水間隔を短くしましょう。

イ　草刈り、マルチ

樹と草との水分競合を防ぐため、草生園では草刈りを行いましょう（地表面からの蒸発散量は、草生園において刈り草をマルチした場合、草刈りしない場合の約半分とされます）。

また、刈り草や稲わらのマルチを行い、土壌水分の保持に努めましょう。

ウ　排水対策

土壌の過湿条件は、葉の褐変や黄変落葉を引き起こす原因となりますので、雨が続き園地で停滞水が発生する場合は、排水対策を徹底しましょう。また、落葉が見られる場合は着果量の見直しを行いましょう。

エ　高温期間中の収穫作業

果実温が高いと日持ち性が低下しますので、収穫は果実温が低い朝のうちに行いましょう。また、収穫後は直射光の当たらない涼しい場所に保管し、速やかに出荷調整を行いましょう。

(2)もも

ア 施肥

収穫後、9月のできるだけ早い時期に礼肥を施用し、樹勢の回復と貯蔵養分の蓄積に努めましょう。礼肥は速効性肥料を用い、窒素成分で7kg/10a 程度(あかつき:中肥沃度地帯の場合)を施用してください。 樹勢の低下が見られる樹では分肥とし、窒素成分で礼肥を6～7割程度、春肥を3～4割の施用量にしましょう。また、樹勢が旺盛で、新梢の二次伸長の著しい樹には、枝の充実を促すために施用を控えてください。

イ 秋季せん定

若木や強勢樹で新梢に二次新梢が見られる場合には、樹勢に応じたせん定方法を実施しましょう。

樹勢が強く徒長枝の発生が多い強勢樹では、9月中旬頃(徒長枝が太る前)を目途に秋季せん定を実施し、花芽の充実と樹勢の安定化、秋季防除における薬液透過の改善を図りましょう。適勢樹では、主枝や亜主枝の生育を妨げる徒長枝を整理し、樹勢の乱れを防いでください。弱勢樹では、秋季せん定を最小限とし、葉芽の多い中果枝や長果枝を多く配置することで、樹勢の回復を図りましょう。

特に幼木から若木時代の冬季せん定が強せん定となると寒凍害を引き起こすため、夏季の新梢管理で残した主幹部の強勢な枝については秋季せん定時に整理し、冬季に大きな切り口を作らないように注意しましょう。

また、モモせん孔細菌病の罹病葉が多く見られる場合には、樹勢を乱さない範囲で枝をせん除し、菌密度の低減を図ることも効果的です。その際、秋季防除実施前に秋季せん定を行い、薬液の到達を妨げる枝は見直して除去するなど、防除効果を高めるよう工夫しましょう。

(3)なし

ア 「豊水」収穫の留意点

「豊水」では果そう葉の多い果実、側枝基部の果実は成熟が遅れ、着果位置では樹冠の外周部から成熟が進む傾向にあります。したがって収穫は枝先の大玉果より始め、次第に主幹に近いところへ移るようにしましょう。主幹に近い部位で日当たりの悪い果実は、地色に青みが残る割には熟度が進んでいるため、採り遅れのないように注意しましょう。

「豊水」の品種特性として、果実の成熟速度が遅く、一樹内の果実の成熟差が小さいため、1～2日おきに数回に分けて収穫しましょう。また、地色の変化や硬度、果実内部のみつの入り方等も考慮して適期収穫に努めましょう。「豊水」は果肉が柔らかく押し傷が発生しやすいため、収穫から調整まで丁寧に取り扱うよう努めましょう。

イ　施肥

「幸水」の収穫終了後、9月中旬頃を目安に尿素など速効性窒素肥料を礼肥として窒素成分で4～5kg／10a施用しましょう。その他の品種(「豊水」「二十世紀」等)でも収穫後できる限り早く礼肥を施用しましょう。

ウ　落果防止剤の散布

「二十世紀」等落果防止剤処理が必要な品種は、薬剤の使用時期と他の中晩生種への飛散防止に注意をしながら散布してください。

(4)りんご

ア　中生種の収穫前管理と収穫

摘葉や玉回し等の着色管理は、各品種の生育状況に合わせて遅れないようにしましょう。摘葉は、気温の高い日が続く場合は日焼け果の発生が懸念されるため、始めは果実に直接触れている葉を中心に軽く行い、その後は気温の状況に応じて程度を強めて実施しましょう。

収穫は、食味(果肉硬度、糖度等)や地色の推移に十分注意し、適期収穫に努めましょう。

イ　落果防止剤の散布

収穫前落果の多い品種では、落果防止剤を散布してください。なお、散布する際は、薬剤の使用時期に十分注意してください。

ウ 「ふじ」の栽培管理

反射シートの敷設や摘葉等の収穫前管理は遅れないように実施しましょう。「ふじ」の摘葉を9月下旬頃から実施する場合は、1回目は果実と接触している葉を中心に数枚程度を摘葉し、10 月中旬に玉回しと合わせて再度実施しましょう。

3 病害虫防除

(1)リンゴ褐斑病

8月下旬における褐斑病の発生ほ場割合は、県内全域で平年より多い状況です。
現在は本病の二次感染期であるので、感染拡大を抑制するため天候に注意しながら、散布間隔があきすぎないよう防除暦に従い、十分量を散布し、防除を徹底してください。

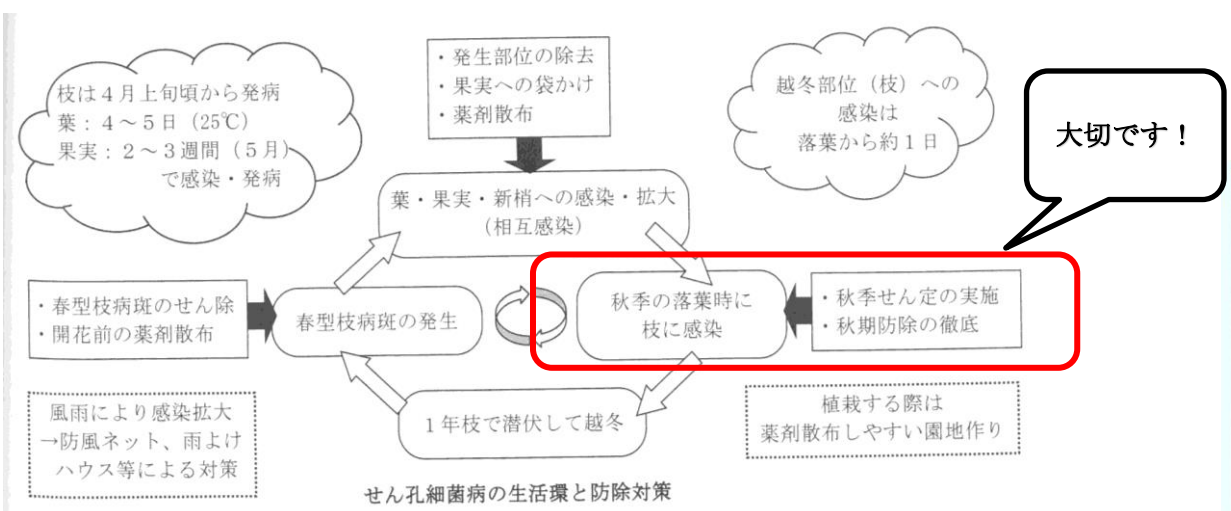
図1 リンゴ褐斑病

(2)モモせん孔細菌病

本病は秋季に降水量が多いと翌春に春型枝病斑の発生が多くなる傾向にあるため、収穫が終了した園では降雨前の秋季防除を徹底し、越冬病原菌密度の低下を図りましょう。

病原菌は落葉痕から感染して越冬し、翌年の春型枝病斑となり、感染源となります。薬液が十分にかかっていない部分があると、その周辺で翌年の春型枝病斑の発生が多くなる可能性があります。越冬伝染源の発生を抑えるために、**秋季せん定を行いましょう。**

秋季せん定により薬液の通りを良くした後は、防除暦に従い**9月上旬以降に秋季防除を3回実施してください。**台風等の強風多雨条件では、落葉痕からの感染が拡大するので、台風等が襲来する前に、**雨前防除**を実施しましょう。



せん孔細菌病の生活環と防除対策

図2 せん孔細菌病の生活環と防除対策（令和6年度福島県農作物病害虫防除指針）　　図3 落葉痕

(3)ナシ黒星病

本病の発生が多い園地では、「幸水」収穫後も防除暦に従い、薬剤防除を行ってください。また、園地内に存在する落葉を園地外へ持ち出して処分する、もしくは乗用モア等によって落葉を500円玉サイズ以下に細かく刻む事で次年度の発生率を軽減できます。

(4)モモハモグリガ

モモハモグリガの第6世代の防除適期は9月1半旬頃と推定され、今後の気温が2℃高く推移した場合、モモハモグリガの第6世代成虫の誘殺盛期は、9月4半旬頃と予測され、第7世代の防除適期は9月4半旬頃と推定されます（表3）。

園地の状況を確認し、密度が高い園では越冬密度を低下させるために収穫後であっても防除を実施しましょう。

(5)ナシヒメシンクイ

今後の気温が2℃高く推移した場合、ナシヒメシンクイ第5世代幼虫の防除適期は、9月1半旬頃と推定されます（表3）。

近年、本種の第5世代によるナシの中晩生種の被害が散見されることから、「幸水」の果実被害が目立つ園では中晩生種を対象に防除を実施しましょう。また、シンクイムシ類の被害果を発見したら摘除し、水づけ等により適切に処分しましょう。

(6)カイガラムシ類

気温が2℃高く推移した場合、ナシマルカイガラムシ第3世代のふ化開始は、9月2半旬頃と予測され、ふ化盛期は9月4半旬頃と推定されます（表3）。

カメムシ類対策等で合成ピレスロイド剤やネオニコチノイド剤等を多く使用している園地では、天敵類の減少によるカイガラムシ類の増加に注意しましょう。越冬虫の誘殺を目的としたバンド処理は9月下旬頃までに行いましょう。

表3　果樹研究所における防除時期の推定（令和7年8月29日現在）

今後の気温予測	モモハモグリガ 第5世代 誘殺盛期	モモハモグリガ 第6世代 防除適期	モモハモグリガ 第6世代 誘殺盛期	モモハモグリガ 第7世代 防除適期	ナシヒメシンクイ 第4世代 誘殺盛期	ナシヒメシンクイ 第5世代 防除適期	ナシマルカイガラムシ 第３世代 ふ化開始	ナシマルカイガラムシ 第3世代 ふ化盛期
2℃高い	8月 28 日	9月1日	9月16日	9月20日	8月29日	9月4日	9月8日	9月20日
平年並	8月 28 日	9月2日	9月20日	9月25日	8月29日	9月6日	9月10日	9月26日
2℃低い	8月 28 日	9月2日	9月 23 日	9月 30 日	8月29日	9月6日	9月 11 日	10 月4日

注）起算日：モモハモグリガ第4世代誘殺盛期　8月8日（予測値）（演算方法は三角法）
　　ナシヒメシンクイ第3世代誘殺盛期　8月5日（予測値）
　　ナシマルカイガラムシ　　3月1日　　（演算方法は三角法）

（7）カメムシ類

当管内におけるフェロモントラップ調査においては、誘殺数は少なく推移しています。しかし、今後発生量が増加する可能性もあるため、飛び込みをよく観察し、多数の飛来が見られる場合は速やかに防除を行いましょう。

表4　JA 夢みなみ・須賀川農業普及所カメムシトラップ調査結果

設置日	5 月 23 日			5 月 22 日			5 月 26 日			6 月 3 日		
調査日	須賀川市和田六軒			須賀川市越久			鏡石町高久田			石川町		
	チャバネアオ	クサギ	備考	チャバネアオ	クサギ	備考	チャバネアオ	クサギ	備考	チャバネアオ	クサギ	備考
8/4	0	0		0	0		0	0		0	0	
8/12	0	0		0	0		0	0		0	0	
8/18	0	0		0	0		0	0		0	0	
8/25	0	0		0	0		0	0		0	0	

（8）ハダニ類

高温期は増殖が速いので、ハダニ類の発生状況をよく確認し、要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭以上）の密度になったら速やかに防除を行いましょう。

作成者：県中農林事務所須賀川農業普及所
電　話：0248-75-2181　FAX:0248-72-8331

ご不明の点は、最寄りの JA または須賀川農業普及所にお問い合わせください。次回の発行予定日は、9月24日（水）です。